

図画工作

I 教科、種目の観点

資料作成に当たっては、共通観点の他に、学習指導要領(平成29年3月)に示された各教科の目標や内容等に即して検討し、教科独自の観点を定めた。

1 教育基本法の理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえて、豊かな人間性の育成を図る上での特長	
共通 観点	(1) 教科の特質に応じて、「教育の目的」及び「教育の目標」の達成、「本県教育が目指す人間像」の育成に資する内容、構成となっているか。
	(2) ふるさと長崎の伝統・文化や歴史、自然について理解を深める学習に生かせる題材が扱われているか。
2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長	
共通 観点	(1) 基礎的・基本的な知識・技能が確実に習得されるよう工夫されているか。
	(2) 知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等が育成されるよう工夫されているか。
	(3) 主体的に学習に取り組む態度が身に付くよう工夫されているか。
教科 独自 観点	(4) 自然物や材料やその形や色などに働きかける造形遊びをする活動においては、児童が発想や構想を繰り返す中で造形活動の経験や技能などを発揮することができるよう工夫されているか。
	(5) 絵や立体、工作に表す活動においては、形や色、イメージなどを手掛りに、材料や用具を使ったり、表現したりできるよう工夫されているか。
	(6) 作品などを鑑賞する活動は、形や色、イメージなどを基に、主体的によさや美しさなどを感じ取ったり、自分なりの意味や価値をつくりだしたりできるよう工夫されているか。
3 学習効果や使いやすさ、見やすさ(ユニバーサルデザイン)等の観点からの表記・表現や体裁の特長	
共通 観点	(1) 文章は、分かりやすく、質・量ともに豊かな記述内容となっているか。
	(2) 写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容との関連や学習効果に十分配慮されているか。
	(3) レイアウトや色彩、文字の大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等については、適切に配慮されているか。

II 選定資料利用上の留意点

- 1 資料の作成に当たっては、設定した観点ごとに、特に目立った事柄を取り上げること。
- 2 利用に際しては、全体を通して総合的に判断し、各教科書の特色をとらえるとともに、地域の実態、その他の条件を考慮して、適正な採択のための資料とすること。
- 3 前記の観点と次表の観点、具体項目とは、対応させて読み取ること。

Ⅲ 具体項目

発行者		開隆堂	日 文
<p>観点</p> <p>1 て、教育豊かな人間性の育成を図る上での特長</p> <p>基本理念や第三期長崎県教育振興基本計画の趣旨・内容を踏まえ</p>	<p>(1) 「教育基本法」の趣旨・内容を踏まえ、豊かな人間性の育成を図る上での特長</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各学年ごとに「わくわくするね」「みつけたよ」「できたらいいな」「力を合わせて」「心をひらいて」「つながる思い」というテーマを設定し、児童の思いや興味を生かす題材や活動を発達の段階に応じて配列するとともに、巻頭にテーマと関連したページを手引きとして設けることで、児童が主体的に創造活動に取り組むことができるよう配慮されている。 平和やオリンピックをテーマとした作品、プロジェクションマッピング、中学校への橋渡しを意識した事例等を紹介することで、形や色、イメージを通して、造形活動が児童の将来や国際社会とつながっていることを実感できるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 低・中・高学年ごとに「たのしいな おもしろいな」「ためしたよ 見つけたよ」「見つめて 広げて」というテーマを設定し、巻頭のオリエンテーションで説明するとともに、体全体を使った造形活動やテーマと関連した題材を配列することで、児童が主体的に創造活動に取り組むことができるよう配慮されている。 諸外国の児童の作品や作家の作品、建築物を掲載することで、それぞれの国による表現方法や風土の違い、共通点に気づき、国際理解の大切さや国境や人種を越えた美術の役割への理解を深めるよう配慮されている。
	<p>(2) 「つながる造形」(5・6年下)で、長崎市立城山小学校の「平和は城山から」が取り上げられており、ふるさと長崎の歴史に由来する造形活動が紹介されている。</p> <p>「みんなのギャラリー」で、各地に伝わる伝統工芸や地域の造形が取り上げられており、図画工作の学習とふるさとや身近な社会との関連について紹介されている。</p> <p>児童の活動と関連する地域の造形を取り上げることで、各地域の伝統や文化について考えを深めるよう配慮されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「ひらめきポケット」(5・6年下)で、長崎市の眼鏡橋が紹介されており、ふるさとの身近なものでも、形や色などに着目し、見方を変えることで、よさや美しさを再認識することが示されている。 「図画工作のつながり ひろがり」で長崎市立城山小学校の「平和は城山から」が取り上げられており、平和学習と関連した造形活動が紹介されている。 伝統的な遊びや玩具、工芸、文化などが適宜紹介することで、地域文化や伝統文化について考えることができるよう配慮されている。 	

Ⅲ 具体項目

観点	発行者	開隆堂	日 文
<p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長</p>	<p>(1) 得られるような工夫されているか。基本的な知識・技能が確実に習</p>	<ul style="list-style-type: none"> 低・中学年においては、複数の題材を通して、継続的に水彩絵の具の基本的な扱い方や簡単な技法を身に付けることができるよう工夫されている。 高学年では、電動糸のこぎりやペンチなど、用具に慣れる必要があるものについて、複数の題材で取り上げることで、表現方法に応じて適切に使うことができるよう工夫されている。 「ひらめきコーナー」で、全学年を通して紙を主材料とした工作を取り扱うことで、多様な紙の性質を理解することができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 水彩絵の具の基本的な扱い方や簡単な技法について、巻末の「使ってみよう材料と用具」のコーナーに詳しく掲載することで、必要に応じて自ら確認できるよう工夫されている。 水彩絵の具や段ボール紙など、材料を複数の題材で系統的に取り扱うことで、これらの性質を理解し、表現方法に応じて適切に扱うことができるよう工夫されている。 工作では、活動の基になるつくり方や動く仕組みなどをコーナーとして図示することで、その仕組みを理解することができるよう工夫されている。
	<p>(2) 夫力等が育たれているか。知識・技能を判断する力を用いて表現する必要がある</p>	<ul style="list-style-type: none"> 「さわって かくの きもちいい!」「のこぎりひいてザク、ザク、ザク」など、学習過程をイメージできるような題材名を多く提示することで、見通しをもって造形活動に取り組み、表現を広げたり深めたりすることができるよう工夫されている。 「へんしんしよう (1・2年下)」「絵から聞こえる音 (3・4年下)」や「比べてみよう (5・6年上)」「龍を見る (5・6年下)」では、鑑賞活動を通して美術文化を実感的に理解することで、その後の表現に生かすことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各題材、発想・構想のヒントをキャラクターの吹き出しにより示すことで、既習事項と関連付けて発想を広げたり、知識や技能を今後の表現活動に生かしたりできるよう工夫されている。 「ポーズのひみつ (3・4年下)」「カードを使って (5・6年上)」「この筆あとどんな空? (5・6年下)」では、作品から感じたり考えたりしたことを基に話合う活動を設定することで、知識を活用して作品を味わい、よさに気付くことができるよう工夫されている。
	<p>(3) 度が身についているか。学習に取り組む態度</p>	<ul style="list-style-type: none"> 他教科の学習と関連した題材を設定し、マークを用いて分かりやすく示したり、学校や家庭で必要に応じて、教科書に掲載した以外の児童作品、製作の手順やポイント、用具の使い方などの各種コンテンツを読み取ることができる二次元コードを掲載したりすることで、児童の主体的な造形活動を支えるよう工夫されている。 「造形の引き出し」のコーナーでは、学びの資料として、学年の発達の段階に応じた材料や道具を取り上げ、使い方や表し方を詳細に紹介することで、児童の主体的な造形活動を支えるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 「図画工作のつながり ひろがり」で、古くからその土地で使われてきた材料や用具、伝統的な文化に携わる人の話やアーティストの考え方を掲載することで、造形活動が昔から友達や地域、世界の人々をつないでいることに気付かせ、今後の学習に主体的に取り組もうとする態度が身に付くよう工夫されている。 「使ってみよう材料と用具」では、学年に応じた道具の使い方を分かりやすく説明することで、主体的な活動の手助けになるよう工夫されている。

Ⅲ 具体項目

観点	発行者	開隆堂	日 文
<p>2 学習指導要領の目標や内容等を踏まえて、確かな学力の育成を図る上での特長</p>	<p>(4)</p> <p>さる経線は遊色自然 れこ験り、び自然 てとや返児をど物 いるが技す童すにや で能ながる働材 きなで発活き料、 るど造想動か、 よを形やにけそ う発活構おの 工揮動想い造形 夫すのをて形や</p>	<ul style="list-style-type: none"> 題材は、どの地域や学校でも実態に応じて取り組めるよう配慮され、題材で扱う材料を絞り込んだり、「同じもの」「たくさん」「色や形」などの条件を与えたりすることで、材料の特性に気付くことができるよう工夫されている。 自然材料にかかわる活動、加工材料にかかわる活動、造形的な操作にかかわる活動を設定することで、確実に材料経験を積み重ねることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 題材は、児童の発達段階を意識して配列することで、身近な材料を基に体全体を使ったり、材料や場の形や色に着目し、場所や環境を生かして活動したり、系統的に学習活動を展開することができるよう工夫されている。 低・中学年では、多彩な題材で材料経験の蓄積が図られるようにすることで、高学年での、新たな発想・構想につなげることができるよう工夫されている。
	<p>(5)</p> <p>うりにイ動絵 工、メにや 夫表材にお立 され現材ジて れてしやなは、 いるたり用は、 か。でき具を形に きを使手や表 つ掛色す よたり活</p>	<ul style="list-style-type: none"> 指や筆などを使って絵を描く経験を重ねることで、様々な技法を知り、自分の表現に取り入れてその効果を楽しむことができるよう工夫されている。 様々な材質の粘土を全学年で取り扱うことで、その後の表現活動で必要に応じて選択し、適切に扱うことができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> テーマを基に想像を広げながら絵に表す題材を繰り返し取り上げることで、その後の表現活動に生かすことができるよう工夫されている。 全学年を通して、様々な材質からなる粘土を経験させる題材を多く設定することで、質感や量感、立体感などの感覚を高めることができるよう工夫されている。
	<p>(6)</p> <p>かき価たやどは作 る値り美を、品 よを、し基形な うつさにやど 工く分な、色を 夫りなど主、鑑 さだりを体イ賞 れしの感的メす てた意じに、る いり味取よジ活 るでやつさな動</p>	<ul style="list-style-type: none"> 低学年では、身近なものを使った造形活動から、身の回りのものをじっくりと見る鑑賞活動へとつなげることで表現と鑑賞の一体化が図られ、高学年では、名画の構図やモチーフの近い作品を比べて話し合う活動を通して、美術文化を実感的に理解することができるよう工夫されている。 「みんなのギャラリー」では、各地の行事やお祭り、伝統工芸を紹介することで、自分たちの地域にある形や色に積極的に目を向け、主体的によさや美しさを感じることをできるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各巻3ページを使った「教科書美術館」では、発達の段階に合わせたテーマのもと、身近なものから美術作品まで幅広く提示するとともに、対話が生まれるような言葉が写真に添えられ、写真と言葉を合わせて見ること、自然に対話が生まれ、能動的な鑑賞へとつながるよう工夫されている。 「対話の様子を吹き出しで表す」「感じたことを文章にする」「感じたことを付箋に記す」「作品について説明する」など様々な言語活動の例を掲載することで、作品に対する自分なりの価値や思いをもつことができるよう工夫されている。

Ⅲ 具体項目

発行者		開隆堂	日 文
<p>3 現や体裁の特長</p> <p>学習効果や使いやすさ、見やすさ（ユニバーサルデザイン）等の観点からの表記・表</p>	<p>(1) 文章は、分かりやすく、豊富な記述内容となっているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 低学年では、「ぴよんぴよんスーツ」「くしゃっ」「ふわっ」など、児童が共感できるような言葉を導入文に用いることで、題材に対するイメージをつかむ上で分かりやすい記述となっている。 材料や用具の取り扱い、技法については、巻末に「造形の引き出し」として8ページにまとめるとともに、各題材に必要な技法や知識については、それぞれの題材ページに囲みで示すことで、適宜参照できるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 全学年を通して、「～かな」「～してみよう」など、教師からの問いかけを導入文に用いることで、児童の興味や関心を高める上で分かりやすい記述となっている。 材料や用具の取り扱い、技法については、巻末の「使ってみよう材料と用具」のコーナーとして8ページにわたり、詳しく説明することで、必要に応じて参照できるよう工夫されている。
	<p>(2) 写真、挿絵、図表などは、学習意欲を高めるとともに、学習内容に十分配慮されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いながら作品を鑑賞する場面の写真を掲載したり、話し合いのしかたとして、説明を添えた連続写真を提示したりすることで、協力して活動できるよう工夫されている。 完成作品だけでなく、発想・構想の力が働いている場面を写真で掲載することで、思考・判断しながら表現を繰り返し、イメージを広げることができるよう工夫されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 実際の活動場面の掲載、題材名のデザイン上の工夫、写真のサイズに大小の動きをもたせるなどの構成にすることで、学習意欲を喚起するよう工夫されている。 適宜、仕組みや作り方を図示したり、活動の写真に吹き出しを加えたりすることで、児童の学習意欲が高まるよう工夫されている。
	<p>(3) レイアウトや色紙、大きさ、挿絵の活用、紙質、製本等に配慮されているか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年（上・下）、3・4年（上・下）、5・6年（上・下）で構成され、各題材の冒頭には、育てたい3つの資質・能力をそれぞれキャラクターを用いて示し、末尾には、他教科等との関連や振り返りを設定することで、児童が自らの活動を振り返り、他教科等につなげることができるよう工夫されている。 大きさはA4判で、表裏表紙まで含めて全巻56ページにまとめられ、色の組み合わせを識別しやすいものにするのと同時に、色だけに頼らなくても内容が理解できるよう配慮されている。 	<ul style="list-style-type: none"> 1・2年（上・下）、3・4年（上・下）、5・6年（上・下）で構成され、各題材の冒頭には、育てたい3つの資質・能力をめあてとして示すと同時に、適宜、造形的な見方・考え方にかかわってヒントを伝えるキャラクターを登場させることで、児童が共通事項を意識しながら活動することができるよう工夫されている。 大きさはA4判で、表裏表紙まで含めて66ページ（1・2年上のみ68ページ）が30カ所以上の細かいミシン糸で中綴じされ、長期の使用に耐えることができるよう配慮されている。